



平成 23 年 12 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
(JASDAQ・コード番号：2776)
代表者名 代表取締役社長 姚 健
問合せ先 専務取締役 児玉俊明
電 話 03-5637-0505

平成 24 年 1 月期 業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ

当社は平成 23 年 8 月 9 日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 1 月期 (平成 23 年 2 月 1 日～平成 24 年 1 月 31 日)

(1) 連結業績予想の修正

(単位:百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,422	△135	△165	△245	円 銭 △10,152.07
今回修正予想 (B)	2,967	△209	△228	△297	円 銭 △12,285.93
増 減 額 (B-A)	△455	△74	△63	△52	
増 減 率	△13.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 1 月期)	4,911	△362	△296	△329	円 銭 △13,635.72

(2) 個別業績予想の修正

(単位:百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,172	△143	△173	△250	円 銭 △10,359.26
今回修正予想 (B)	2,725	△228	△241	△304	円 銭 △12,575.49
増 減 額 (B-A)	△447	△85	△68	△54	
増 減 率	△14.0	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 1 月期)	4,818	△360	△301	△333	円 銭 △13,806.96

(注)連結及び個別業績予想におきまして、今回修正予想の1株当たり当期純利益の算出にあたり使用いたします株式数につきましては、平成24年1月30日に予定しております、臨時株主総会において株主の皆様にご承認を頂くことを条件として実施する新株発行を考慮した期中平均株式数（自己株式は除く）24,174株を使用しております。詳しくは、本日開示しております「第三者割当による新株式発行（デット・エクイティ・スワップ）第2回新株予約権の発行及びコミットメント条項付き第三者割当契約の締結並びに主要株主及びその他の関係会社の異動に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 業績予想の修正理由

当第3四半期連結累計期間におけるカジュアルウェア市場におきましては、東日本大震災やその後の原発被害や関東における計画停電などが影響し、また、天候不順等による消費マインドの低下や、生活防衛意識の高まりなどの影響による節約・低価格志向等依然として慎重な消費行動が続くなど、厳しい市場環境の中での推移となりました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、基幹事業であります卸売事業を中心に「T&C Surf Designs」（タウン&カントリー）及び「RUSS-K」（ラスケー）を中心に主力得意先毎への商品提案の強化を行い販売活動に努めましたが、晩夏から初秋にかけては、天候不順等の影響もあり、秋シーズンの立ち上がりが後ろ倒しとなったことから、主力シーズンアイテムであります、長袖Tシャツや、トレーナー・パーカーなどのスエット素材が当初の販売計画数を下回り、プロパー（正規品）の販売率も低下しました。また、シーズン後半ではセール品販売等により販売単価が下落し、結果売上高及び売上総利益が計画が下回る結果となりました。

小売事業では、引き続きアウトレット店舗でのプロパー商品及びキャリー商品の余剰在庫の消化を積極的に行い、また店外催事の開催等により、在庫の圧縮に努めました。セール販売により販売単価は下落したものの、販売数量は当初計画を上回り、結果、売上高及び売上総利益は概ね想定内となりました。

ライセンス事業では、卸売事業とのシナジー効果を高めることを目的に、サプライセンシー各社との協議を行い、新たなビジネスモデルの構築を推進してまいりました。しかしながら既存のビジネスにおいては、市場マインドの冷え込みから低価格志向が強まり、大手GMS（総合小売業）等の商品開発によるPB（プライベートブランド）化の影響により苦戦をいたしました。

一方、販売費及び一般管理費につきましては、諸経費削減等による費用の圧縮に努め概ね計画通りの推移となりました。

しかしながら、営業面での売上高の減少による売上総利益の減少を販売費及び一般管理費の削減ではカバーすることができず、結果、営業利益、経常利益、当期純利益は前回予想を下回る見通しとなりました。

以上